

民話から見た「ふるさと大東」 出版祝賀昼食会

日時：2007年2月3日（土曜日）

節分 正午～午後2時

（昼食・著書「ふるさと大東」・トメやん団子付）

講師：塾生 東口恵子さん

会場：法善寺横町「えび家」・法善寺



一生の内に、自分が書いた本を一冊でいいから世に送り出したいと思う人は多いが、作家やエッセーリスト以外でないと、なかなか普通の人がその思いを実現できる事は難しい。

全国手づくり絵本コンクール第四回最優秀賞・第七回 井口文秀賞を受賞した塾生の東口恵子さんが絵本執筆の為に収集した大東市を中心とした大阪の民話16篇、古堤街道・東高野街道2編を、

A5番280ページの「ふるさと大東」（一冊1500円）という本として纏め昨年12月に初出版。

ふるさと大東・大阪を見つめ直したとき、知っているようで知らないことが多くて驚いた。次の世代にも民話に託された先人の思いを伝えたい！生活環境が変化するなかで、郷土の財産である民話がどんどん消えていくことに東口さんは焦りを感じ、10数年来収集した写真・資料をふんだんに織り込んで読みやすい本に編集。

その出版祝いを兼ねて、節分のお昼に法善寺横町の伊勢海老料理「えび家」に東口さんを囲み、2時半からは文楽人形「八重垣姫」も法善寺境内で行われた豆撒きにお神酒も頂き、中座の芝右衛門狸の祠後を訪ねた。

収録作品：《民話》：さかれた龍・だんじり・野崎まいり・お染久松・トメやん・深野池に飛び込んだ観音さま・中池のガタロウ・ガタロウの窓・神さまになった徳兵衛さん・勿入淵・鯉の散らし紋・はちかづき・草薙剣・笑い猫ガラスケ・芝右衛門狸・長柄の人柱 《街道》：古堤街道・東高野街道

節分のお昼に法善寺横町の「えび家」に集う

お昼前、打ち水をされた石畳を横切り、法善寺横町の伊勢海老料理「えび家」の暖簾を潜る。会場は三階、小春日



日とで暖かく、開け放たれた窓から法善寺の水掛不動さんが覗き見ることができ、そこに山伏数名が集い節分会の護摩木が積み上げられていた。時々読経の声に混じってほら貝の響きと線香の香りも舞い上がってくる。

正午過ぎに、参加者が全員揃ったところで、下野さんの発声で白ワインで乾杯。付きだしに生き伊勢海老のお刺身・ご飯と食事を味わいながら歓談したり、絵本の原本を回し読みしたところで、手渡された本を手に感想などをまじえ恒例の参加者の自己紹介が一回り。

そこで、「ふるさと大東」の原本になった絵本「とめやん」を手に、東口さんの



読み聞かせとなった。参加者も子供のように物語に聞き入っている間に、2時半近く「えび家」さんの前で記念写真をとったところでその路地を抜けて一行は人垣が出来始めた法善寺さんの架設舞台近くに歩み寄った。



法善寺さんの節分会と芝右衛門狸が居た中座ビルへ

水掛不動さんの前で護摩木が積み上げられている。紅白の横断幕に包まれた一角で若住職・市会議員・府会議員の挨拶後に文楽人形の八重垣姫も加わって節分を迎えよい年をと祈りを込



めて合掌。鏡割りとつづきお神酒が振舞われ、福豆も撒かれた。人垣の中を退場する八重垣姫ともまじかに遭遇できた法善寺さんでの節分会を楽しんだところで、中

締めとなり自由解散。希望者は、芝右衛門狸が祀られていた中座に移動した。

●芝右衛門狸の概略：「ふるさと大東」より。淡路島の洲本に芝右衛門という芝居好きな狸が、大阪から着く船で帰って来る人の道頓堀の芝居が素晴らしいという噂をききつけ、侍に化けて大阪・中座へ。ちょうど上演していた菅原伝授手習鑑の歌舞伎の舞台上で仁左衛門の晴れ姿に感動し、思わず大声を揚げ、ついうっかりと尻尾を出してしまい大騒ぎ。「狸が暴れている！」とばかりか叩き殺されてしまった。それから小屋には人が入らず、狸を殺したからだろうか・・・あの狸も芝居好きで仁左衛門に声をかけたのだろうかと心を痛めた人々が小さな祠に建てて、役者も「いい芝居ができますように」と祈願するようになると、芝居に人が集まり、道頓堀の賑わいも戻ったそう。



